

国立国語研究所学術情報リポジトリ

次元形容詞にみる母語話者らしい日本語形容詞の使用

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ), International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS) 作成者: 西内, 沙恵 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001471

次元形容詞にみる母語話者らしい日本語形容詞の使用

西内 沙恵 (国立国語研究所・立教大学) †

How native speakers of Japanese use adjectives
The case of dimensional adjective “takai”

Sae Nishiuchi (National Institute for Japanese Language and Linguistics and Rikkyo University)

要旨

日本語非母語話者は、形容詞用法の習得過程において形容動詞との活用の混同、時制の違いなどを経るが、これらの文法規則こそが日本語形容詞使用における特性といえるか。本研究では、次元形容詞「高い」を題材にその構造と意味表出の関係を分析し、I-JAS で得られた日本語非母語話者の使用への観察から、日本語らしい使用の特性を明らかにする。

1. はじめに

日本語母語話者 (以下 NS) も日本語非母語話者 (以下 NNS) も、日本語の習得過程において (1) のような名詞修飾にノ格を挿入する誤用を経ることが知られている¹。このほか、NNS の形容詞使用には (2) のような形容動詞との活用の混同や (3) のような時制の違い、(4) のような活用の違いが多く観察される。加えて、(5) のような意味の面での誤用も少なくない。また、これらの文法的な違いが複合的に用いられることもある。これらはある時期を過ぎた NS にはみられなくなるが、NNS にはしばしば化石化し一定数みられ続ける誤用である。

(1) *甘いの物が好きです

【出典】 I-JAS サンプル ID : JJC14-I

(2) *父と母は忙しいだから 〈はい〉誕生日のパーティは、も、していませんでした。

【出典】 I-JAS サンプル ID : JJC12-I

(3) *えー昨日は一ちょっと忙しい {笑}、です、はい

【出典】 I-JAS サンプル ID : SES50-I

(4) *ファーストフードの中に栄養は少ないくて、・・・

【出典】 I-JAS サンプル ID : IID19-e

(5) ?古いの先生

【出典】 I-JAS サンプル ID : JJC28-I

しかし、上のような文法上の違いがなくなれば、自然な日本語らしい発話になるだろうか。本研究では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (以下 BCCWJ)』で得られた実例をもとに次元形容詞の用法を考察する。さらに、I-JAS で得られた NNS と NS の発話を比べ

† snishiuchi@ninjal.ac.jp

¹ ある女兒の連体修飾用法の習得過程を観察した横山 (1978) によれば、NS である女兒 K は 628 日 (1 歳 7 ヶ月) から (1) のような「[形容詞]の[名詞]」の誤用が観察され、1032 日 (2 歳 8 ヶ月) に形容詞にノ格をつけた発話が観察されなくなった。

ながら構造の選択の差異を探り、日本語次元形容詞の使用における構造の特性を明らかにしたい。

2. 次元形容詞「高い」の用法

形容詞を品詞として認める場合、いかなる言語でも次元性・年・評価・色彩の4つの意味の要素がとり出せる(Dixon 2004)。本研究では、類型論的に普遍的な意味の要素の一つである<次元性>に着目し、それを表す形容詞の一つ「高い」を扱う。

2.1 「高い」をめぐる先行研究

空間的な特性をその中心義とする形容詞の記述・分析は服部(1968)、国広(1970)、西尾(1972)、久島(2001)など数多く、複数の次元形容詞の意味範疇が体系的にまとめられている。言語の経済性に則って、基本的な語ほど使用頻度が高く多義である(鈴木2005)という性質から、基本的な次元形容詞が表出する意味も次元的な意味にとどまらない。

「高い」は「上方への距離が大きい(北原(編)2010: 1041)」という<次元性>のほか、温度などの<度合いの拡張性>や、評判や悪評など上方向に限らない方向性の尺度を示す<範囲の拡張性>、値段などを表す<価値の保有性>といった意味を持つ多義語である²。多義表出を動機づける要因は、名詞の性質と二重主語構文にみてとれる(西内2016)。

- (6) a. ?彼女は高い。 b. 彼女は背が高い。
 (7) a. その靴は高い。 b. その靴はヒールが高い。

(筆者による作例)

(6a)は「彼女とデートすると、いい店に行かなければならないため高くつく」や「彼女がサービス業に従事していて、そのサービスを受けるために高額な料金を要する」など<価値の保有性>の読みは可能だが、<次元性>の読みはまずできない。同じように(7a)は「靴の値段が高い」という<価値の保有性>を意味する。彼女の「背の高さ」や靴の「ヒールの高さ」という<次元性>の表出には、「彼女」、「靴」が主題化によって示され、「背」、「ヒール」という<次元性>を受ける属性や部分がガ格で主格として指定される必要がある。では、どのような条件でこの制限が必要となるのか。

2.2 <次元性>を表出する「高い」の用法

BCCWJで語彙素「高い」、その前方共起に書字形出現形「が」を指定し、短単位検索で抽出された9779件の実例を観察したところ、「高い」の<次元性>を表出する標識に被修飾名詞の場所的特性が関わっていることがみて取れた(西内2016)。ただし固有名詞は対象への知識によって想起される意味が異なるため、観察対象は普通名詞に限定している。

2.2.1 場所的特性の観点

名詞の場所性は日本語文法において重要な問題として扱われ、名詞の場所性を文法的に検証するテストとして、寺村(1968)で(I)から(III)の-に名詞を当てはめる手法が編まれた。

- (I) ココハーデス
 (II) -ヘイク
 (III) -デ〜シタ

² 「低い」、「安い」などの非両立関係の反義語があることから多義語であると認定される(国広1982)。

³ 20代の日本語母語話者7名を対象に、形容詞文の容認度と解釈を問うたインフォーマント調査による(2014年11月実施)。

【出典】 BCCWJ サンプル ID : OY14_29732 Yahoo!ブログ

(12), (13) は絶対的な場所性ではないものの、一定の空間を有する相対的场所名詞であり、これらも<次元性>の表出に主格の補完を要さない。

(14) 眼は細いのだが、鼻が高いので、顔が引き締まって小さく見える。

【出典】 BCCWJ サンプル ID : LBj9_00218 曾野綾子(著) 『極北の光』

(14) は、主題化によって示されるはずの名詞、すなわち「眼」、「鼻」の所有者である「人」が表されていないものと考え、主題に当たる名詞の「人」が場所性を有さないために<次元性>の表出に対象の明示が必要になっていると考えられる。

(15) 給湯床暖房とこの断熱法を併用するとより暖房効果が高くなります。

【出典】 BCCWJ サンプル ID : LBg5_00034 濱口和博(著) 『プロも見落とす家づくりの急所』

(16) ホッキ貝 (三百十五円) より赤貝が高いとはね。

【出典】 BCCWJ サンプル ID : OY03_01717 Yahoo!ブログ

(15), (16) のような場所性を帯びない名詞が被修飾名詞のとき、<次元性>以外、すなわち<価値の保有性>などの意味が想起されることがうかがえる。

(17) 諸事情があり実家には戻れない。選択肢として、1. アパートが高くても都内に住んだ方がいい。2. 何があってもすぐかけつけられる

【出典】 BCCWJ サンプル ID : OC04_01022 Yahoo!知恵袋

(17) では、被修飾名詞が場所名詞であるのにも拘らず<次元性>が表出されない。これは、「アパート」が住む場所でもあり、所有の対象にもなりうる相対的场所名詞であるためだと考えられる。

以上、次元形容詞「高い」の<次元性>とそのほかの意味の表出の条件を、被修飾名詞の場所性と二重主語構文にみた。この構造を、暫定的に表1のようにまとめる。

表1 場所性を基準とした意味用法の区分

	場所的特性アリ	場所的特性ナシ
<次元の意味>	直接修飾	ガ格の補完
<次元の意味>以外	相対的场所性なら直接修飾	直接修飾

(18), (19) は、被修飾名詞が場所名詞ではないが、<次元性>を表出している用例である。これらへの分析は今後の課題としたい。

(18) ちょんまげ時代の人は、枕が高くてもちゃんと眠れたのでしょうか？

【出典】 BCCWJ サンプル ID : OC12_03936 Yahoo!知恵袋

(19) そうすると、その積み木が高くなるにつれ、不安定になって、そのうちには崩れますね。

【出典】 BCCWJ サンプル ID : OC12_06260 Yahoo!知恵袋

3. NS と NNS の形容詞使用の差異

ここまで、「高い」の実例からその用法をみてきた。では、はじめにみたようないわゆる文法規則の誤用のほかに、NS と NNS の間にはどのような使用の差異がみとめられるだろうか。

『多言語母語の日本語学習者横断コーパス (以下 I-JAS)』で語彙素「高い」を検索し得られた 373 件のうち叙述用法を観察した。対象となったのは、NNS である調査協力者 (K) の使用のうち叙述用法 164 / 253 件⁴と、NS である調査協力者 (K) と調査者 (C) の叙述用法 8 / 17 件⁵である。

3.1 NNS の日本語形容詞の使用

NNS の「高い」の使用を観察したところ、前文で NNS 自身が用いた名詞や、調査者が発話した名詞を引き継ぎ、省略して「高い」を単独で用いる (21) から (26) のような例が 48 件と目立ってみられた⁶。なお、(20) のように助詞を省略したり、被修飾名詞と「高い」の間に調査者のあいづちを挟んだりしたものは数えていない。また、「高い」使用の直前に格の明示、とりたて助詞の使用、被修飾名詞を類推可能にする比較表現など、被修飾名詞の断定を可能にする形式が同文中にある用例も除いている。ここでも用例には、「高い」に下線を、被修飾名詞にあたる語に波線を引いている。

(20) C:「賑やかな田舎」K:「うん、と都会、近いからまあビルでも、ビルそんなに高くない、でも普通な」

【出典】 I-JAS サンプル ID : JJC28-I

(21) は、前文で用いた名詞を次に発話する文でも被修飾名詞として省略して用いている例である。「高い」は単独で用いられ、助詞句がない。

(21) K:「東京スカイツリー、ありました？」C:「あもう行ったの？」K:〈んー〉C:「えー」K:「でもー、高すぎるた高すぎます {笑}」

【出典】 I-JAS サンプル ID : FFR27-I

(22), (23) は調査者の質問に現れた主格ないし述部にあたる名詞を、(24), (25) はデ格でとられた名詞を被修飾名詞として引き継ぎ、助詞句なしに「高い」で修飾している。

(22) C:「も関心が高いんあるんですか？」K:「んー」C:〈んー〉K:「そうですね」C:〈うーん〉K:「はいそうですもっと」C:〈うーん〉K:「高くてー〈うん〉もっと文化と〈うん〉文化といろいろなことを増やしたくて」

【出典】 I-JAS サンプル ID : EAU37-I

(23) C:「へー、高い山なんですか？」K:「ほんと高いですね〈ふーん〉あれ、空気がいいところ」

【出典】 I-JAS サンプル ID : JJC09-I

(24) C:「あるんですかね、お料理で」K:〈あー〉C:「何か」K:「有名なー」C:「料理？」

⁴ 叙述用法以外の用法の内訳：修飾用法 81 件，連用用法 3 件，名詞用法「高さ」5 件

⁵ 叙述用法以外の用法の内訳：修飾用法 9 件

⁶ 同じ文脈で繰り返し使われた用例も数えている延語数である。

K:「後で有名で高い」 C:「高い?」

【出典】 I-JAS サンプル ID : FFR08-I

(25) C:「よかったですね無事にタクシーで、友達に会えたんですね」 K:「でもとても高かったですけど、とっても」 C:「ああーそうなんですかふーん」

【出典】 I-JAS サンプル ID : HHG16-I

(26) は、調査者が発話し、また NNS 自身も前文で発話した対象を被修飾名詞として助詞句の明示なしに叙述している例である。興味深いのは、<次元性>と<価値の保有性>という異なる意味を立て続けに同一の語「高い」で表し、それに対して NS の調査者が確認している点である。<次元性>を太線で、<価値の保有性>を細線で示す。

(26) C:「スキーの有名な場所」 K:「あーはいコーショベール」 C:〈ふーん〉 K:「はい、あーあー高いところです、」 C:〈あーそうですかー〉 K:「そこでとても高いです」 C:「たとても高いつていう意味は、山の」 K:「あーいえいえあー価格は」 C:「価格が?」 K:「あ高いです」 C:「高いとこ? そうなんですか? どうして価格が高いんだろう」

【出典】 I-JAS サンプル ID : FFR17-I

データ種別の内訳は、発話データが 120 件、作文データが 44 件であった。データ種とタスク種別に被修飾名詞の有無を表 2 にまとめた。表 2 中の左側に実測値、行と列の割合から計算される期待値との差を右側に記す。また、期待値との差の大きさを表中にデータバーで示している。対話のタスクで現れた発話データで、被修飾名詞が明示されない使用が多かったことが読みとれる。

表 2 データ種別にみる被修飾名詞の有無の期待値差

		被修飾語の明示アリ		被修飾語の明示ナシ		合計
データ種	タスク種	実測値 / 期待値との差		実測値 / 期待値との差		
発話データ	対話	68	-14.0	48	14.0	116
	RP1	2	0.6	0	-0.6	2
	絵描写	2	0.6	0	-0.6	2
作文データ	メール1	1	0.3	0	-0.3	1
	エッセイ	43	12.6	0	-12.6	43
総計		116		48		164

3.2 NS の日本語形容詞の使用

日本語を母語とする調査協力者の叙述用法 8 件を観察すると、作文データ、発話データのいずれでも助詞句の明示や比較表現の使用など、何らかの方法で被修飾名詞が特定される形式が用いられていた。(27) では、「私」の声の<度合いの拡張性>が表されている。

(27) C:「高音も、ちゃんと出るんですか?」 K:「あー、私どちかっていうと、その、高いほうで〈あー〉、低いのが出ないんですよ」

【出典】 I-JAS サンプル ID : JJJ15-I

4. まとめ

I-JAS で得られた NNS と NS の産出を比較したところ、NNS に文脈依存的な発話が目立つ一方で、NS の産出では被修飾名詞を特定可能にする形式が用いられていた。

日本語では、文脈で復元可能であれば結束性が維持されるため、助詞句全体の省略が可能である。にも拘らず、用例数が少ないことを差し引いても、NS に文脈依存による助詞句などの非明示が選択されていないことは興味深い。被修飾名詞及び類推を可能にする要素の明示がなくとも不自然に感じられない例を作ることは難しくなく、また例にみてきた NNS の使用は文法的におかしくないが、実際の NS の使用にはみられなかった。

使用に個人差がある「裸のハ」の出現の分布や機能の研究が発展させられている。話し言葉において、助詞句は削除されても結束性が保たれる。「裸のハ」が出現する根拠は結束性の問題ではなく、確信がない、躊躇しているといった話し手の心理が反映されている感動詞類的な振る舞いによるという見方（有田 2009, 2015）や、話者間で共同して主題と解説の構造を作り上げる「コラボレーション発話行為文（三原 2016）」といった分析がなされている。NNS が対話者である調査者が発話した語を引き継ぐのは、語用論的な現象に関与しているものと思われる。一方、NS が被修飾名詞を明示するのは、形容詞の多義表出を担う文法構造によるものと考えられる。

日本語では、英語の‘high’も‘expensive’も「高い」で表すという程度の多義の認識から、その文法用法に着目されず、NNS と NS の間に使用の差異がみられたのではないだろうか。助詞句の明示が、NNS と比べて NS の使用に特徴的であることから、意味の表出に関与する「高い」の文法用法は、多義の使用での振る舞いに根ざすものであることが示唆される。

文 献

- 有田節子 (2009). 「裸のハ」についての覚え書き『日本語研究センター報告』16, pp.95-107.
 有田節子 (2015). 「日本語疑問文の応答の冒頭に現れる「は」について：係助詞から感動詞へ」『国立国語研究所論集』9, pp.1-22.
 北原保雄 (2010²). 『明鏡国語辞典』大修館書店
 久島茂 (2001). 『《物》と《場所》の対立—知覚語彙の意味体系—』くろしお出版
 国広哲弥 (1970). 「日本語次元形容詞の体系」『言語の科学』2, pp.13-26.
 国広哲弥 (1982). 『意味論の方法』大修館書店
 迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子 (2016). 「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」『国語研プロジェクトレビュー』6:3, pp.93-110.
 鈴木智美 (2005). 「多義の構造」日本語教育学会(編)『新版日本語教育事典』pp.271-273.
 田窪行則 (1984). 「現代日本語の「場所」を表す名詞類について」『日本語・日本文化』12, pp.89-115.
 寺村秀夫 (1968). 「日本語名詞の下位分類」『日本語教育』12, pp.42-57.
 西内沙恵 (2016). 「現代日本語における知覚形容詞「高い」の意味基準に関する一考察—場所名詞の観点から—」『日本認知言語学会論文集』16, pp.467-473.
 西尾寅弥 (1972). 『形容詞の意味・用法の記述的研究』（国立国語研究所報告 44）国立国語研究所
 服部四郎 (1968). 「高イ、低イと high, tall; low, short」『英語基礎語彙の研究 ELEC 言語叢書』pp.119-124. 三省堂
 三原健一 (2016). 「コラボレーション発話行為文としての「裸のハ」構文」『日本語文法学会第 17 回予稿集』pp.89-94.
 森山卓郎 (1988). 『日本語動詞述語文の研究』明治書院
 横山正幸 (1978). 「幼児初期における連体修飾規則の習得過程」『Annual convention of the Japanese Association of Educational Psychology』20, pp.68-69.
 Dixon, R. M. W. (2004) “Adjective classes in typological perspective”. In Dixon and Aikhenvald (eds.) *Adjective classes: A cross-linguistic typology*, pp.1-49. Oxford U.P.

関連 URL

コーパス検索アプリケーション『中納言』『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>